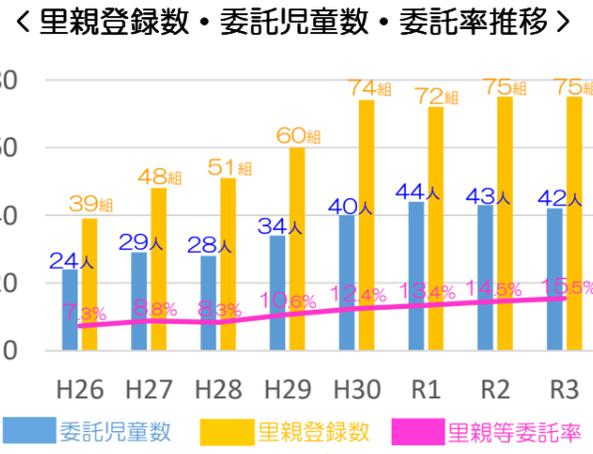


# 里親のことを知ってください 「さかい里親YEAR」

様々な理由で家族と暮らせない子どもを、家庭に迎え入れる里親。堺市では里親登録の増加に取り組んできましたが、近年は横ばい。家族と暮らせない子のうち、里親家庭等の家庭的環境で暮らせる子の割合(=里親等委託率)は15.5%です。全国平均が22.8%、国の目標が75%ですから、まだまだ低水準です。そこで堺市では、「さかい里親YEAR」と銘打って、登録促進活動をスタート。「里親」と聞くと縁遠いことのようにですが、**里親家庭を必要とする子は、きっと身近にもいます。**それは長期間の養育を必要とする子もいれば、数週間や数日という短期の子、週末だけの子など様々です。被虐待の子もいれば、親の入院などの理由もあります。年齢も様々です。ゆえに、**様々な受け皿(=里親家庭)が必要**なのです。まずは「里親」について知ってみませんか？ **※里親ハンドブック**



## 議会の外でも、堺の外でも、全力疾走！

### 明石市視察

子育て先進市として名高い明石市を視察。駅前の一等地に、子どもの遊び場や図書館と子育て相談窓口が一緒になった施設があり、力のかけ方がよくわかります(右下写真)。医療費や給食費の無償化だけでなく、乳幼児家庭訪問等のきめ細かな支援も充実。大きな財政負担ですが、それで現役世代を呼び込み、**税収アップと次の投資につなげる**という好循環を実現。削ることはかなりの堺市とは大違いです。堺市も発想の転換が必要です！



### 台湾保護司と交流

信州大学で日本の保護司制度を研究する、台湾の保護司さんが堺に来られ、意見交換し、保護観察所等をご案内。楽しく、勉強になる国際交流でした。きっかけはなんと、私の保護司制度についてのブログ。研究者の目に留まるとは光栄です！



### 大阪市内で講師

「おおさか commons」という大阪市の市民団体に招かれ、選挙に関する勉強会の講師を務めました。政治と市民をつなぐのは、私たちの大事な仕事。政治や選挙に関する話なら、小さな集まりでも、喜んで参ります。気軽にお声がけを。



**ご意見をお寄せください！** FAX: 072-320-0103 Mail: takeshi@fuchigami.info

議員の仕事は、市民の声を市政に届けること。まずは「聞くこと」です。皆様のご意見、ご不満、お困りごと、何でもお聞かせください。政策立案に活用させていただきます。

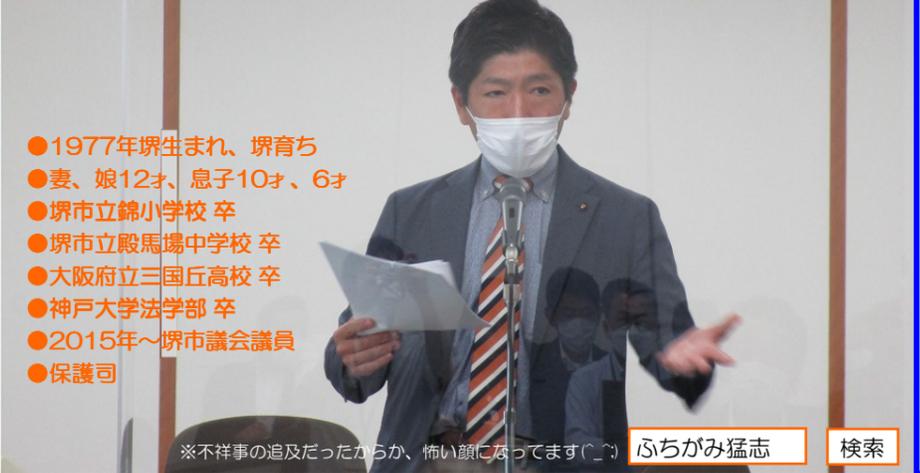
お名前： TEL：  
住所：

### ふっちーのつぶやき (編集後記)

新しいポスターが出来上がりました。掲示へのご協力を、宜しくお願ひします。そういえば娘が保育園児だった時、街中の私のポスターについてどう思うか訊くと、「他はいいんだけど、保育園の前だけはやめて」と。あれから8年、娘は中学生。怖くてもう訊けません。



# ふちがみ猛志 議会活動報告 Vol. 29



- 1977年堺生まれ、堺育ち
- 妻、娘12才、息子10才、6才
- 堺市立錦小学校 卒
- 堺市立殿馬場中学校 卒
- 大阪府立三国丘高校 卒
- 神戸大学法学部 卒
- 2015年～堺市議会議員
- 保護司

### 大阪カジノは住民投票で

「税金は使わない」と言っていたのに、**2000億円を超える公費負担**。「外国人観光客中心のカジノ」と言っていたのに、**想定来場者の7割が日本人**。ユニバーサルスタジオジャパン(USJ)の**1.4倍にもなる無謀な来場者数の見込み**。コロナ禍を経て、収益見込みが大幅に水増しされた不可解さ。このまま大阪カジノを進めるべきなのか？その是非を住民投票で問うべきだと、3月下旬から約2か月に亘って署名活動が行われ、**法定必要数を大きく上回る20万筆以上が集まりました**。私も微力ながら運動に加わりました。ご協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。



### 他人事ではないカジノの動向に注目

署名が必要数に達したことから、住民投票をするかどうか、大阪府議会に諮られます。大阪府議会は維新が過半数です。「**住民投票は究極の民主主義**」と言って、自分たちの望む住民投票(大阪都構想)は2度も実施した維新が、府民の望む住民投票を蹴ることなど、

あるはずないと信じたいものです(この記事は7月1日作成)。仮にもしそうなった場合、次は「**十分な地元の合意形成**」を求めてきた国が、**大阪カジノを認めるのかどうか、その判断が問われることとなります**。カジノは堺市民にとっても他人事ではありません。なぜなら私たちも、大阪カジノの負担を背負われる府民であり、また堺市自身も、**カジノ推進派の永藤市長**のもと、関連事業への税金の投入が進んでいるので、**ぜひご注目ください**。



### 健康福祉委員会に所属

今年度は健康福祉委員会の所属となりました。これまで3年連続文教委員会だったので、気分一新です。また、昨年度は(公平中立の立場の)委員長だったので、委員会で質問ができませんでした。久しぶりにたっぷり質問ができるので、気合十分です。子育て支援や、高齢者福祉、障がい者福祉などが委員会の所管事項です。いい報告ができるよう頑張ります。



### 動画配信中！

堺市政の様々なテーマについて、動画で分かりやすく解説しています。ぜひご覧の上、チャンネル登録を！



### ポスターを貼らせてください！

ご自宅や店舗、駐車場等々に、ふちがみのポスターを掲示して頂けませんか？来春までの掲示にご協力頂ければ幸いです。ご協力頂ける方は、電話、メール(右下QRコード)等でご連絡をお願いします。



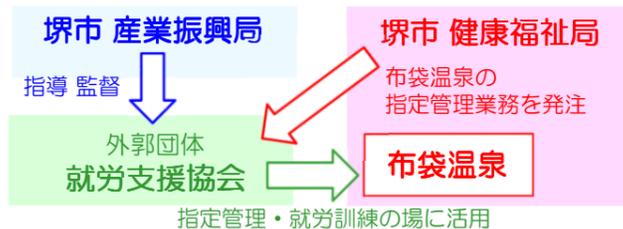
TEL/FAX: 072-320-0103 ※TELは平日9:30~16:30に受付

※匿名でも結構ですが、ご連絡先をご記入くださいましたら、必ずお返事いたします。

# 就労支援協会で大不祥事続発！公共施設で喫煙・飲酒！？

## 就労支援は公共の大事な仕事

就労困難者を支援し、就労できるようにすることは、社会的に大きな意義があり、堺市では外郭団体「就労支援協会(以下、協会)」がその役割を担っています。また堺市各部署は、道路清掃や公共施設管理等の業務を協会に発注し、就労訓練の場として活用させています。不祥事が発覚したのは、その公共施設の1つ、健康福祉局が所管する布袋温泉でした。



## 告発により発覚した不祥事

3月中旬、不祥事の内部情報をもとに私は営業前の布袋温泉を抜き打ち訪問し、3人の職員による(禁止されている)施設内での喫煙を確認。同時に、責任者である場長が定時よりも早く退勤しながら、残った職員が定時に打刻するという日常的なタイムカードの不正打刻、さらには施設内の事務所で、勤務時間中の宴会という、計3つの組織的不祥事を指摘しました。それを受けて協会は調査し、3月末時点でいずれも「大筋で」事実確認がなされたのでした。「就労訓練の場」でもあるはずの公共施設が、不祥事の巣と化していたのです。



近隣の憩いの場でもある布袋温泉

## 不祥事の予兆を放置した就労支援協会

実はこの約一年半前にも、不祥事がありました。ある職員が日常的に、勤務中に飲酒をしていたのです。この時、協会は(実質的に不利益のない)戒告処分に留めるばかりか、その後には当該職員を場長に次ぐ管理的立場に昇進させ、一方で現場の監視や指導を強化することはありませんでした。しかも、協会はこの飲酒事案を堺市に報告すらしていなかったのです。隠ぺいと言われても仕方ないことです。この職員は今回の不祥事の中心的人物でもあり、協会の当時の生ぬるい対応が招いた結果とも言えるでしょう。さらに今年1月には市民から「職員が喫煙しているので？」との苦情があったのに、協会は布袋温泉(現場)に足を運ぶことすらなく、電話で確認。「喫煙はない」とのウソの返事をそのまま堺市に報告し、不祥事を見つけ出すチャンスをフイにしていたのです。

## 協会の信じられない対応が続く

協会は不祥事を大筋で確認しておきながら、約1ヶ月間、私に指摘されるまで、渦中の場長に現場を任せ続けました。協会が服務規律徹底を各現場に通達したのは、発覚から2か月半も経ち、私が本件を議会で取り上げると通告した直後のことでした。一方、指定管理業務の発注者(いわばお客)である健康福祉局には、謝罪すらありません。そして3か月半経った時点でも、この不祥事は「詳細調査中」のまま。危機感が欠如した協会の現経営陣に、就労訓練という大事な公共の役割を任せ続けられるでしょうか。議会での私の追及に、市長は「重大な問題。厳正に対処する」と表明。経営陣の責任は極めて重く、協会は解体的な出直しが必要です。



協会はなぜぬるま湯体質なのか？

## 【協会と布袋温泉での不祥事の流れ】

R2.10 勤務中の常習的飲酒が発覚、軽い処分のみ

堺市には報告せず！  
処分したはずの職員を管理的立場に昇進！

R4.1 職員の喫煙を疑う市民からの苦情  
不十分な調査で「喫煙なし」と結論づけ

### R4.3.14 内部情報とふちがみの調査で発覚

- ①施設内での複数職員による常習的喫煙
- ②タイムカードの組織的不正打刻
- ③事務室等での営業時間中の度重なる宴会

- ・ふちがみが指摘するまで1ヶ月以上も場長を留任
- ・議会で追及される直前に服務規律徹底の現場通達
- ・議会で追及されてなお、健康福祉局に謝罪せず
- ・7月1日時点でも依然として「詳細調査中」

堺市の外郭団体、公共施設におけるこの不祥事をどう感じましたか？率直なご意見をお聞かせください。



# 公立幼稚園の改善に提言

## 幼児教育の底上げの先頭に

存廃の議論が続いていた公立幼稚園を「幼児教育の研究実践の場として残す」と決めたのが2年前。昨年度、その一環として公立幼稚園で、堺市内の民間の幼稚園教諭、保育士をも対象とした公開保育を実施。参加者の評価は高く、市内の幼児教育の底上げを図る上でも、一層の取り組み強化が望まれます。そのためには、幼稚園を所管する教育委員会と、こども園・保育所を所管する子ども青少年局の協力が不可欠で、私の求めに対し当局は「しっかり連携する」と答弁。また、人材育成だけでなく、人材確保(新規採用)についても、教育委員会(幼稚園教諭)と子ども青少年局(保育士)が個別に採用活動をするのではなく、連携して行うよう求めました。

## 三国丘幼稚園は園舎の建て替えを

一時は廃園方針だったため、園舎の更新は遅れ、老朽化。中でも三国丘幼稚園は築60年超の平屋のコの字型の園舎で、空き教室もあり、土地活用の効率もよくありません。二階建てにして余剰地を作れば、園庭を



①2,273㎡の園地の大半を平屋園舎が占める  
②1,340㎡の市有地の活用方法は未定  
③公園を挟んで隣、スプーの冷めない距離！

広げたり、売却で建替え財源にも。ZEB(ゼロエネルギービル)にすれば、光熱費もダウン。新園舎で使い勝手も向上。隣接の空き地を活用すれば、保育への影響を最小限にし、工期短縮も。すぐに着手すべきと訴えました。当局は建て替えが課題だとの認識を示しました。

## 幼稚園給食の実現も

市内のほぼ全ての私立幼稚園が給食を提供。子育て支援、園児確保、食育推進の観点から、公立幼稚園でも実施すべきです。三国丘や白鷺幼稚園なら、すぐそばの小学校の調理場の活用により、実現可能なはず。検討を求めましたが、当局はできない理由を並べ、後ろ向きな姿勢に終始。私は今後も諦めずに求めていきます。



# いじめ不登校対策支援室は機能するか？

深刻化するいじめや、増加する不登校に対応するため、市長部局に「いじめ不登校対策支援室」が設置されました。しかし、子どもや現場から遠く離れた市役所組織が介入して、問題が解決できるのか。私の疑問に市長は、「学校で全て解決できるなら、このような支援室は必要なかった」と返答しましたが、なぜ学校現場で解決できない(問題を大きくしてしまう)のか、根本原因が分かっていないようです。それは現場の多忙化と専門的人材の不足です。だからやるべきは教員やSSW

(スクールソーシャルワーカー)等の専門的人材を現場に分厚く配置し、担任をサポートすることです。また、子どもには多様な居場所や声を拾える窓口を用意し、寄り添える大人を増やすことです。永藤市政でSSWの配置は減り、子どもの居場所の1つ(マイスタティ)が廃止されました。遠くから現場に口を出すことよりも、疲弊する現場にまずは人とカネ(予算)を出すこと。それがリーダーの仕事ではないでしょうか。



## 2050カーボンニュートラルへ

堺市は、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ(カーボンニュートラル)を目指しています。それには公共施設的环境性能向上が不可欠です。現在、古い公共施設の更新は、市政改革推進室が判断しているものの、その基準に「環境性能」が入っていません。消費電力の多い古い家電から買い替えるのと同じで、環境性能の低い施設は、更新の優先順位を上げるべきです。私の指摘に対し、同室は環境局との協議・連携を約束しました。

## 名ばかりの府市連携

大阪IR(カジノ)の集客見込みが、ユニバーサルスタジオジャパンの1.4倍？この無謀な計画をどう思うのか、当局に問うと「新聞等で知っているが、行政間では情報が入ってこない」と。自慢の「府市連携」が聞いて呆れます。堺市もカジノの集客をアテにして、ベイエリアの開発に税金を投入しているのに、あまりにも無責任です。



大阪カジノのイメージ図